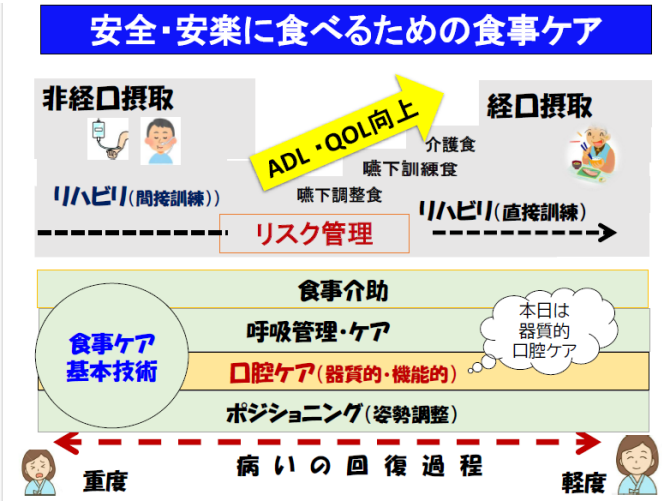
# 交流セッション報告
# 根拠ある口腔ケアで誤嚥性肺炎を防ごう
―安全・安楽・尊厳・気持ちよさをめざす食事ケア技術―

**日時：2026年10月12日（月・祝）11時～12時**
**場所：聖路加国際大学**（〒104-0044 東京都中央区明石町10番1号）

食事ケア班は、食事ケアを構成する技術の中から「口腔ケア」、とくに「粘膜ケア」に焦点を当てて交流セッションを企画しました。口腔ケアを単なる清潔ケアではなく、「生活や食を支えるケア」として捉え、根拠に基づく口腔ケア技術の普及と質向上を目指します。

交流セッションには、食事ケア班メンバー10名、参加者47名、総勢57名で開始されました。迫田班長によるミニレクチャーの後、口腔ケア場面のバッドシーンとグッドシーンのデモンストレーションが行われました。工夫されたカメラワークによる実技デモを通じて「食べる」ことの入り口となる口腔ケアや、口腔内を湿潤させて乾燥を軽減する重要性を周知しました。参加者からは粘膜ケアや食事ケアを組み合わせた質問が活発に出され、スタッフのチームワークのもとで口腔ケアの重要性と実践的手法を共有する非常に有意義なセッションとなりました。







スライド提供：迫田綾子



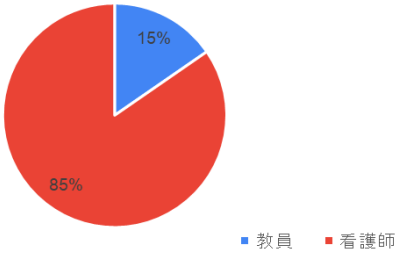
会場の様子



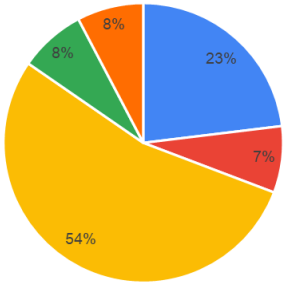
迫田氏によるミニレクチャー

# ❁アンケート結果❁（回答者：13名）

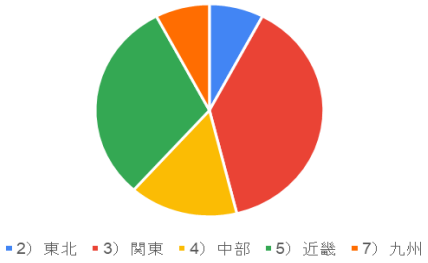
1．あなたの職種を教えてください




2．あなたの職場の種類を教えてください

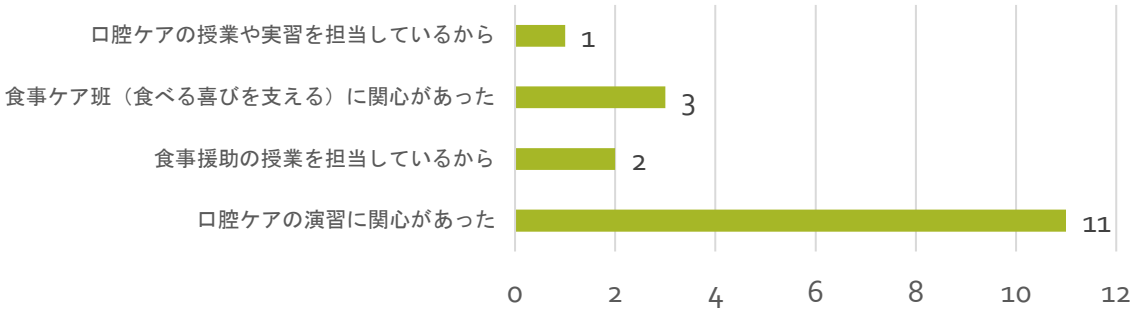



3．あなたの住んでいる地域を教えてください






4.交流セッション⑪に参加したきっかけを教えてください（複数回答可）




## ❁交流セッション⑪に参加して、印象に残っていること、明日からやっていきたい（教えていきたい）と思うことなどお聞かせください❁

・粘膜ケアの重要性が改めて分かりました
・満足できる口腔ケアを実践するのには自身の日頃からのセルフケア充足が大切だと学びました
・口腔ケアの目的やアセスメント
・洗口の効果にびっくりしています
・恥ずかしながら、粘膜乾燥には保湿剤や飴、ガムしかないと思っていました。粘膜ケアで唾液分泌を促す。やってみます！
・口腔ケア後に細菌が増えることに驚きを感じました。歯磨き後のうがいは50mlを1回が推奨されていると聞いたことがありましたが、やはりしっかりうがいをすることが大事なのだと学ばせていただきました。貴重なご講義ありがとうございました。
・口腔粘膜ケアの実例やうがい体験は、新たな学びがあり説明や手際も分かりやすくスムーズで、とても勉強になりました。私が臨床にいた頃は、悪い事例の方が当たり前に行われていて、改めて身につまされました。この反省も含めて、学生に伝えていかないといけないと思いました

## ❁交流セッション⑪参加者の今後受講したい研修テーマやご要望❁

- 食事介助の全ての流れのポイント総集編
- 口腔健康管理加算の算定要件に看護職が入るための取り組みをぜひ展望いただき、診療報酬の面から、看護における食事や口腔援助の加算に向けて考えていることがあればお聞きししたいです。単に人数がいることだけの算定や、専門看護師的な人への算定だけでなく、看護師として行っている技能そのものに報酬がついてほしいと思います。この視点がないと、看護基礎教育も発展しないと考えています

## ❁技術班メンバーの振り返り・今後に活かします❁

1. 全体の雰囲気と評価
- 満足感とチームワーク: 「チームワークを感じた」「初めての参加で楽しかった」といった声が寄せられ、振り返り会でも全体として好意的な評価が共有されました。
- 工夫された実技の配信: デモやカメラワークを工夫したことで、手元や細かな手技までしっかりと参加者に伝わりました。

2. 参加者の反応と印象的な場面
- 新しい気づきへの驚き: 従来の「舌苔ケア」に偏りがちな考え方に対し、口腔内を湿潤させて乾燥を軽減することの重要性を伝えた際、参加者が驚いていた様子が印象的でした。
- 現場に即した質疑応答: 参加者から粘膜ケアや食事ケアと組み合わせた質問が具体的に出され、非常に関心が高く深まりのあるやりとりが行われました。

3. 討議された主な内容
- 対象者別のケアの使い分け: 介護を要する人と健康で自立した人とで、ケアの方法を分けて考える必要性が確認されました。
- 実践的なトピックの共有: 高濃度フッ素配合製品使用後のうがいの捉え方や、PCR(プラークコントロールレコード)が高い人と使用している歯ブラシの形状に関する傾向などが話題に上りました。

4. 来年度に向けた展望
•「食後の口腔ケアを再考する」をテーマ軸として、講義時間を短縮し、食後のブラッシングや義歯の取り扱いといった「体験学習」の時間を増やす方向性が検討されています。

| 対象者の状態に応じて口腔ケアの方法を使い分ける必要性が確認されました。 | |
|---|---|
| フッ素配合製品 | 高濃度のフッ素配合製品では、使用後のうがいを控えるよう推奨されていることも話題になった |
| 対象者別のケア | 介護を要する人と、健康で自立した人とで、ケアの方法を分けて考える必要がある |
| トピック:PCR | PCR(プラークコントロールレコード)が高い人は、使っている歯ブラシの形状が良くない傾向がある |



デモンストレーション



食事ケア:食べるよろこびを支え合う技術班(交流セッション参加メンバー):迫田綾子、原等子、山田正巳、大久保暢子、水戸優子、川端直子、田畑千恵子、杉山理恵、大石朋子、定松ルリ子、芳村直美